

# 新病院予算が可決されました

2月定例会市議会最終日（23日）、市民病院整備にかかわる基本設計予算及び基金条例制定の議案が賛成多数（反対7名）で可決されました。これまで2度の議会否決に対して、新病院の整備を願う市民の運動が大きく広がり、議案の可決につながりました。早期の整備に向け、引き続き、がんばります。

## 新病院の基本設計予算（一般会計）に対する共産党市議団の賛成討論（野並市議団長）の要旨をお知らせし

市民病院建設へ、基本設計費8185万円が計上され賛成討論を行います。

今議会の提案は、昨年5月定例会と11月臨時議会の、2度に亘り否決されたことにより、この否決に対して、今年1月、市自治連合会が「関連予算再提案と早期整備」を求める要望書が市長に提出されまし

た。同じく、医師会や社会福祉協議会、福祉団体など9団体が自治連合会と同様に、新病院の早期整備を求めて市議会と市長に要望されたのであります。さらに市内女性団体有志など市民団体のみならずも市議会に強く要望され、今議会に「野洲市民病院を実現する会」からは8700筆、女性団体からは4400筆の市民の署名を添え早期整備を求められました。また、議員OBのみならずからは現職時代の党派を超え早期整備を求める請願が提出されました。

まずもって、多くの市民のみならず、団体が『野洲市には病院が必要。なくさないで。整備してほしい』という、この切実な願いに答えるのが私ども市議会・議員の大切な役割であり、仕事であります。

現野洲病院は年間、通院・入院で延べ年間約15万人が利用しています。まさに野洲市の中心的医療機関であり地域医療を担っている病院であります。この病院がなくなるとすれば、現病院の役割を引き継ぎ、市民の命と健康を守る市民病院の

整備はどうしても必要であり、これは現野洲病院の医師と職員のみならずと市民の思いであり、この思いと願いが早期整備を求める運動に広がったものであります。

この間の議会議論では病院整備そのものは否定しないが、財政上や建設地で懸念する意見がありました。しかし、新病院の整備はこれまで4年を超える期間、専門家と市民、また、議会議論の中で「市立病院の整備を行う、駅前での建設」は多くの市民の総意となり、これに沿って基本計画が策定されたものであります。

もちろん、本議会でも指摘されましたように、引き続き、市民のみならず一層説明と理解深め、新病院の整備を進めることは言うまでもありません。同時に大事なことは、今日、政府は公立病院改革と称して、公立病院の経営の効率化を求め、統合・再編、病床削減や財政措置の抑制策を進めています。この中で地域医療をなす公立病院は、いわゆる不採算部門もありませんが、一方で、民間にはない、公立病院ならではの医

療サービス提供や市民の要望が真つすぐ届けられるものであります。その意味では、いま、市民の命と健康を守る医療施策を進めることが自治体に求められており、新病院整備計画で市内開業医との連携による後方支援、高齢者医療、また、これまで野洲市になかった病児・病後児保育の整備も計画されるなど公立病院ならではの医療サービスが行われるものと思えます。

以上、本予算の新病院の基本設計費計上について述べましたが、2度の否決に対して「循環バスを利用して通院していただきます。病院がなくなればどうしたらいいの。なくさないでください」など、切実な声が寄せられています。人口5万人の野洲市にとって新病院の整備は切実な願いであり、そのための基本設計予算計上は必要なものと考えます。

市長に置かれては市の最高責任者として、引き続き、市民の切実な願いに答え、早期の新病院整備を進められるよう要望し賛成討論とします。

市長に置かれては市の最高責任者として、引き続き、市民の切実な願いに答え、早期の新病院整備を進められるよう要望し賛成討論とします。



こんにちは  
**東郷正明**です



ご意見・ご要望をお寄せください  
野洲市比江864 (☎589-4158)  
2016年3月24日 No.19